

平成 25 年度事業報告

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

① 常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(4)
5. 統計調査委員会	(6)
6. 専門医制度委員会	(7)
7. 国際学術交流委員会	(11)
8. 評議員選出委員会	(12)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(13)
12. 危機管理委員会	(14)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(14)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(15)
(2) 監事	(15)
(3) 評議員	(16)
(4) 退任した役員等	(21)
(5) 役員等の報酬等	(21)

② 会員に関する事項	(22)
------------	------

③ 職員に関する事項	(22)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(22)
--------------	------

⑤ 許可、認可、承認等に関する事項	(27)
-------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(27)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(28)
2. その他の記載事項	(28)

I. 当法人の事業の状況

① 常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第58回日本透析医学会学術集会が、日本赤十字社 福岡赤十字病院 副院長 平方秀樹会長が主宰し、平成25年6月21日(金)・22日(土)・23日(日)の3日間に亘って、福岡国際会議場等を会場として開催された。メインテーマは「全人力! 科学力! 透析力! for the people!」-Power of Humanity! Power of Science! Power of Dialysis! For the people!-を掲げて開催され、参加者は15,963名であった。

<特別講演>

「日本医師会の医療政策～地域医療再興をめざして～」

「Fifty years of renal replacement therapy : personal recollections of a kidney patient」

「私の腎臓病との付き合い」

<招請講演>

「Update on Obesity Paradox, Reverse Epidemiology and Protein-Energy Wasting in CKD」

「A phosphate-centric paradigm for pathophysiology and therapy of chronic kidney disease」

「Chronic kidney disease : a clinical model of premature aging」

<会長講演>

「Vertes, エリスロポエチン, ガイドライン～いつも, 胃心のまわりで～」

<International Symposium>

「Special Session on Dialysis Therapy in Asian Countries」7題, 「CKD-MBD International Symposium : MBD and prognosis」6題

<シンポジウム>

「急性腎障害 (AKI) の基礎と臨床」5題, 「バスキュラーアクセスガイドラインの目指すところ」8題, 「CKD-MBD : up-to-date」5題, 「高齢者透析導入の modality と comorbidity～実臨床において配慮すべき点は何か～」5題, 「透析医療と社会経済」5題, 「透析患者のターミナル期を考える～生活援助の視点から～」7題, 「On-line HDF : 保険認可を得ての展望と課題」5題, 「透析患者の心血管系合併症」6題, 「糖尿病透析患者の管理の特殊性」6題, 「腎性貧血を標的とした新しい創薬に向けて」6題, 「透析医学・医療における挑戦すべき課題～未来へのメッセージ～」7題, 「透析における更なる安全確保のための臨床工学」5題, 「長時間透析～より良い透析医療の普及のために～」5題

<ワークショップ>

「透析患者のよい眠りを考える」5題, 「次世代透析療法, 人工腎臓開発の展望」7題, 「全人力をより高めるための透析チーム医療～専門職それぞれのあるべき姿～」6題, 「ここが知りたい透析患者の薬物療法の疑問」5題, 「在宅血液透析の総合評価」6題, 「CKD-MBD (臨床)」6題, 「透析患者の認知症～病態から社会的ケアまで～」6題, 「バスキュラーアクセスの今後の方向性を探る」7題, 「腎性貧血治療における適切な鉄管理」8題, 「透析患者における心筋脂肪酸代謝イメージング」5題, 「透析患者の重症虚血肢に対する治療」7題, 「東日本大震災の被災現状と今後の対応について」7題, 「腎不全看護におけるマネジメント, その現状と課題」6題

<教育講演>

「CKD および老化と FGF23/*klotho*」, 「腎不全と腎移植, 糖尿病と脾移植～その現状と展望～」, 「腎移植後透析再導入患者の管理」, 「慢性腎臓病および透析患者の脳血管障害」, 「臨床疫学研究の基礎」, 「膝下单独

病変による重症虚血肢症例に対する血管内治療の現状」,「治療抵抗性高血圧に対する腎デナベーション」,「透析患者における脂質異常症」,「臨床応用に向けた腎臓再生研究」,「透析患者の骨疾患;診断と治療～最新の進歩～」,「高齢者の腹膜透析～在宅医療へのパラダイムシフト～」,「バスキュラーアクセス～考え方と作り方～」,「透析医療と医療の質改善 (Quality Improvement)」,「危険な鉄の安全域」,「急性腎障害 (AKI) の最近の話題～尿細管の再生はどこまで可能か～」,「透析患者における慢性炎症と栄養」,「透析患者にも適応できる体液異常と輸液の基本的な考え方」,「ゲノム研究とオーダーメイド医療」,「臨床疫学への招待」

<よくわかるシリーズ>

「バスキュラーアクセスⅠ」,「バスキュラーアクセスⅡ」,「透析患者の合併症Ⅰ」,「透析患者の合併症Ⅱ」,「多発性嚢胞腎」,「栄養管理」,「ファブリー病」,「透析効率」,「On-line HDF」,「ウイルス性肝炎」,「CKD-MBDⅠ」,「CKD-MBDⅡ」,「腹膜透析」,「腎移植Ⅰ」,「腎移植Ⅱ」,「透析患者の合併症Ⅲ」

<学会・委員会企画>

『腎性貧血治療ガイドライン委員会企画:「新しい腎性貧血治療ガイドラインを目指して」6題』,『血液浄化機能効率に関する学術小委員会企画:「HDF フィルタに求められる性能」6題』,「透析用血液回路標準化基準と安全管理」1題』,『統計調査委員会企画:「世界に発信する我が国の透析」6題』,『透析導入・非導入委員会企画:「終末期患者に対する慢性血液透析療法の見合わせ」6題』,『国際学術交流委員会企画:「Dialysis patients and malignancy: Do they have higher incidence?」4題』,「Treatment strategy for ESKD patients: Conservative or Dialysis?」5題』,「International Session1」3題』,「International Session2」3題』,『腎不全総合対策委員会企画:「ESRD (CKD5) の総合対策」7題』,『保険委員会:「診療報酬改定の課題と問題点」4題』,『専門医制度委員会企画:「専門医制度の現状と課題」6題』,『男女共同参画推進委員会企画:5題』

<企業共催シンポジウム>

「中性化 PD 液が日本の PD 療法に与えた影響」4題』,「透析治療の最難関問題 そう痒症に挑む」5題』,「腎性貧血治療における国内エビデンス～これまでにわかってきたこと、今後の展望～」6題』,「DOPPS」8題』,「PD30年の成果と展望」4題

<市民公開講座>

平成 25 年 6 月 29 日 (土) 「学ぼう!慢性腎臓病 広めよう!腎移植」をテーマに福岡国際会議場メインホールにて開催された。

2) 通常総会

平成 25 年 6 月 20 日 (木) 16:00～ 福岡市博多区博多駅前 2 丁目 18-25 ホテル日航福岡 都久志Ⅲにおいて、第 58 回通常総会を開催、定款第 30 条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき、第 58 回学術集会・総会会長である平方秀樹会長が議長を務めた。各常置委員長から資料に基づき平成 24 年度事業報告の説明及び平成 25 年度事業計画の報告があり承認された。平成 24 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等、平成 24 年度公益目的支出計画実施報告書、監事による監査報告があり承認された。平成 27 年第 61 回学術集会・総会会長候補として大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学准教授武本佳昭先生を理事会で承認されたとの報告があった。また、理事会で承認され、本総会に推薦された秋澤忠男先生、海津嘉蔵先生、久木田和丘先生、中尾俊之先生及び頼岡徳在先生の名誉会員の表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、平成 25 年 6 月 22 日 (土) 福岡国際会議場メインホールで授与式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

- ・常任理事会:平成 25 年 5 月 24 日, 6 月 20 日, 11 月 22 日, 平成 26 年 3 月 28 日
- ・理事会:平成 25 年 5 月 24 日, 6 月 20 日, 11 月 22 日, 平成 26 年 3 月 28 日
- ・監査会:平成 25 年 5 月 13 日

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

① 学会活動ならびに関連情報の公開・更新を行った。

1. 学術集会・総会等最新の学会情報を逐次掲載した。
2. 事業報告, 事業計画, 財務資料を逐次公開した。
3. 文部科学省, 厚生労働省, 関係省庁・関連団体からの通知を逐次掲載した。
4. 医療機器, 医薬品の回収等, 医療安全情報を逐次掲載した。
5. その他, 会員関連情報を逐次掲載した。

② 各種委員会, 小委員会, ワーキンググループ活動内容を積極的に HP に掲載した。

1. 最新の学会誌 (日本透析医学会雑誌, Therapeutic Apheresis and Dialysis) の情報を掲載した。
2. 専門医制度関連の情報を逐次更新した。
3. 各種委員会からのお知らせを掲載した。
4. 新たに作成された3つのガイドライン等を掲載した。

③ 会員専用ページの内容についてさらなる充実をはかった。

④ HP のリニューアルについて検討した。

1. 透析について広く一般に周知する目的で, HP の一般向けコーナーを試作した。
2. HP の一部をリニューアルした。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

日本腎臓病薬物療法学会の「腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定試験」に協力し専門・認定薬剤師の輩出に協力した。

(3) 感染調査小委員会

特に感染調査小委員会を開催して検討を要する問題点はなく, 感染症関連のガイドラインやマニュアル作成への参加もなかった。

(4) 法人問題検討小委員会

一般社団法人に移行後, 検討を要する問題点はなかった。

(5) 男女共同参画推進小委員会

第58回日本透析医学会学術集会・総会に委員会企画を立案した。

6) 学会との連絡, 協力関係

日本医学会 (評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員)

日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会

透析療法合同専門委員会 (日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会)

日本透析医学会と日本透析医会との連絡協議会

内科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会 (日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会)

登録腎生検予後調査検討委員会

日本腎臓財団, 日本臓器移植ネットワーク等

感染対策・災害対策・学術交流などに関し, 積極的に連行協力をすすんでいる。

2. 財務委員会

平成 25 年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指し運営した。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、2013 年 4 月から 2014 年 3 月までに 12 冊発行した。
発行部数は月平均 16,100 部であった。

・ 2013 年 4 月～2014 年 3 月の投稿数、掲載数

論文投稿数 114 編、受理数 67 編、掲載された投稿論文 62 編（内訳：原著 26 編、症例報告 28 編、その他 8 編）。採択率は 59%であった。

その他、第 58 回学術集会講演からの依頼論文 9 編、委員会報告 2 編、ガイドライン 2 編を掲載し、投稿論文を含め合計 75 編を掲載した。

・ 電子ジャーナル

引き続き科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の電子ジャーナルを公開した。

・ 投稿規程の改正

投稿規程の一部見直しの結果、改正を行った。また、税制改正に伴う文言の一部修正を行った。

2) 欧文誌について

欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として、引き続き刊行した（2013 年 4 月から 2014 年 3 月までに 6 回刊行）。また、インパクトファクターは 1.529 であった。

また、TAD とは別に本学会独自の欧文誌の発刊について検討し、平成 26 年度新規事業計画に基づき、概算要求を行った。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

平成 25 年度の学会賞は次の 2 編であり、6 月 22 日の通常総会で表彰した。

河野圭志（明石医療センター）

「Composition and plaque patterns of coronary culprit lesions and clinical characteristics of patients with chronic kidney disease. *Kidney International*. 2012 ; 82(3) : 344-351.」

本田浩一（昭和大学）

「Oxidized high-density lipoprotein as a risk factor for cardiovascular events in prevalent hemodialysis patients : *Atherosclerosis*. 2012 ; 220(2) : 493-501.」

<奨励賞>

平成 25 年度の奨励賞は次の 1 編であり、6 月 22 日の通常総会で表彰した。

亀井大悟（東京女子医科大学）

「Impact of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident on Hemodialysis Facilities : An Evaluation of Radioactive Contaminants in Water Used for Hemodialysis. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2012 ; 16(1) : 87-90.」

2) 小委員会活動

(1) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会（川西秀樹委員長）

- ① 日本臨床工学技士会，日本医療機器テクノロジー協会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続し，本邦の見解を ISO 基準へ反映させた。
 - ② 第 58 回日本透析医学会学術集会・総会において学術委員会企画総会委員会企画「HDF フィルタに求められる性能」「透析用血液回路標準化基準と安全管理」を開催した。
 - ③ 新たな「血液浄化器機能分類」を検討し，学会誌に掲載した。
- (2) ガイドライン作成小委員会（政金生人委員長）
- ① 当学会のガイドラインの意義，構造，作成・改訂手順を明確化，文書化するために，一般社団法人日本顎関節学会に協力を依頼，外部講師を招いた勉強会を開催した。2014 年 3 月の理事会において，上記勉強会は「ガイドライン手順書作成ワーキンググループ」として発足した。
 - ② CKD-MBD ガイドライン（深川雅史グループ長）：「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン Clinical Practice Guideline for CKD-MBD 透析会誌 45(4)：301-356，2012 は「Guidelines：Clinical Practice Guideline for the Management of Chronic Kidney Disease-Mineral and Bone Disorder. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2013；17(3)：247-298 として上梓され，本 WG は活動を終了した。
 - ③ 維持血液透析ガイドライン（渡邊有三グループ長）
 - i. 血液透析処方グループ：「維持透析ガイドライン：血液透析処方. 透析会誌 46：587-632，2013」を上梓し，英語版を作成し Therapeutic Apheresis and Dialysis 誌への投稿準備中である。
 - ii. 血液透析導入グループ：「維持透析ガイドライン：血液透析導入. 透析会誌 46：1107-1155，2013」を上梓し，英語版を作成し Therapeutic Apheresis and Dialysis 誌への投稿準備中である。
 - iii. 慢性血液透析療法の非導入/継続中止グループ：「委員会報告 第57回日本透析医学会学会委員会企画コンセンサスカンファレンスより 『慢性血液透析療法の導入と終末期患者に対する見合わせに関する提言（案）』 透析会誌 45(12)：1085-1106，2012 について，2013 年 6 月にコンセンサスカンファレンス，10 月に公聴会を開催し改訂版の作成に着手した。
 - ④ バスキュラーアクセスガイドライン改定（久木田和丘グループ長）：「慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドライン. 透析会誌 44：855-937，2011」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への投稿準備中である。
 - ⑤ 透析患者の糖尿病治療ガイドライン（稲葉雅章グループ長）：「血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012. 透析会誌 46：311-357，2012」の Therapeutic Apheresis and Dialysis 誌への投稿準備中である。
 - ⑥ 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦グループ長）：
 - i. 日本腎臓学会編「慢性腎臓病に対する食事療法基準」の改定作業に際し，同基準内の透析患者に対する食事管理基準の策定を行った。2013 年 6 月のコンセンサスカンファレンスを経て，「委員会報告 慢性透析患者の食事療法基準」としてまとめ，透析医学会誌に掲載準備中である。
 - ii. 「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の策定にむけて，統計調査委員会と連携してわが国の透析患者の適切な栄養摂取栄養状態の評価法など，基礎的なデータの収集を行った。
 - ⑦ 腎性貧血治療ガイドライン改訂ワーキンググループ（山本裕康グループ長）：「2008 年版日本透析医学会慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改定作業を行った。
- (3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（伊丹儀友委員長）
- 昨年一回会合を持ち，各職がそれぞれの分野で進歩発展していくことが必要であるが，透析医療はチーム医療となっており，それぞれの職種の進歩発展が，他の職にも理解され有機的な協力体制が作られることが重要だという認識で一致した。今年度は，それぞれの職種の進歩と意向が如何に他の職種に理解され，協力体制を組めるかについて検討し，また，そのために透析学会が何ができるか，また何が必要かを検討し，小委員会企画として 27 年度透析医学会学術集会に発表できるよう「医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制」の具体的な土台作りを行うこととした。

(4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の申請について、会誌 46 巻 10 号に掲載し、研究助成金の対象者の選定を行った。

今年度は以下の 3 名への助成が決定した。（敬称略）

① 鎌田裕実（相武台ニーレンクリニック リハビリテーション科：理学療法士）

「維持血液透析 (HD) 患者における下肢筋力の低下が運動時の自律神経活動と動脈伸展性に与える影響」

② 須田健二（杏林大学保健学部 臨床工学科：臨床工学技士）

「電氣的インピーダンスの変化を用いた抜針検知システムの開発」

③ 高橋良光（新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科：臨床工学技士）

「ブタ静脈血管を用いた短期カテーテルの評価システムの開発に関する検討」

(5) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

平成 25 年度の本小委員会では、各委員が得意とする技術を次世代血液浄化に応用する方法について、3 回の委員会で議論した。特にコンピュータシミュレーションの分野では、細胞内での物質交換を理論的に取り扱うことで、透析液の至適 Ca 濃度に関して新たな知見も得られている。他にも、カテーテル用新素材、装着型人工腎臓、再生医療を応用した人工腎臓、急性血液浄化治療・アフエレーシス技術と維持血液透析との融合、新規吸着材など、斬新な試みも提案されている。

5. 統計調査委員会

- 1) 2012 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2012 年 12 月 31 日現在）の内容を集計し、第 58 回日本透析医学会学術集会・総会で統計調査委員会企画として速報を報告し、また、学術集会・総会の 3 日間で統計調査資料をパソコンで閲覧できることとし、延べ 395 人の閲覧者があった。
- 2) 日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2012 年 12 月 31 日現在）」を作成し（4,800 部）、施設会員などに配布し、ホームページに掲載した。
- 3) 2012 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2012 年 12 月 31 日現在）の内容の詳細を CD 化し（4,800 枚）、施設会員などに配布し、ホームページの会員専用ページに掲載した。
- 4) 2014 年 1 月の本学会会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2012 年 12 月 31 日現在）」を掲載し、ホームページの会員専用ページにも掲載した。
- 5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）の英語版を作成し、本学会会誌英語版（Therapeutic Apheresis and Dialysis 2013; 17(6): 567-649）に Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan として掲載し、ホームページの会員専用ページにも掲載した。
- 6) 2013 年 12 月 31 日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷などを把握するためのアンケートを作成し、4,326 の透析施設に送付し、2014 年 3 月現在順調に回収作業が行われている。
- 7) 会員、各委員会などから統計調査委員会に要望のあった調査や解析を委員会研究として行い、論文として掲載し、わが国の透析医学の発展に寄与した。
- 8) 2012 年度は 2 件の公募研究を選定し、現在研究中である。2013 年度も 7 件の応募があり、1 件を公募研究、2 件を委員会研究として採択した。
- 9) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員、さらには公募研究者の指導などの目的で、統計解析に関する講習会などを開催した。

・統計解析小委員会

膨大な統計調査データの解析実務を行い、ガイドラインなどの作成のための基礎資料や論文を創成した。わが国の透析医療の向上を目指し、公募研究を支援するとともに、委員会研究を行い、論文文化した。

・腹膜透析（PD）レジストリー小委員会

日本腹膜透析医学会と合同で行う本小委員会は、2009年末調査から開始したレジストリーの結果を、2012年「わが国の慢性透析療法の現況」の図説やCD版に掲載するとともに、第58回日本透析医学会学術集会・総会、および第19回日本腹膜透析医学会学術集会・総会にて報告した。

・地域協力小委員会

2013年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2013年末アンケート調査送付施設を決定した。2013年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行っている。第58回日本透析医学会学術集会・総会において、小委員会全体会議を開催し、今後の方針を検討した。

・データベース管理ワーキンググループ

委託業者とともに、過去からの膨大なデータベースの整備を継続するとともに、毎年加わる新規データを一元管理すべく努めている。

6. 専門医制度委員会

- 1) カリキュラム小委員会、専門医・指導医認定小委員会、専門医試験小委員会、施設認定小委員会に研修プログラム小委員会を設置し、5小委員会に組織改編し、専門医・指導医認定小委員会を専門医認定小委員会に改名した。また、専門医認定小委員会には3つのWG（セルフトレーニング問題、専門医試験問題集改訂、研修カリキュラム・指導マニュアル）があったが、専門指導マニュアルを試験問題集として使用することになり、専門医試験問題集改訂WGと研修カリキュラム・指導マニュアルWGを合併した。
- 2) 透析専門医として日本専門医制評価認定機構（日本専門医機構に変更）から認定を受けるため、現行の専門医制度とは別に、専門医制度を整備した。
 - (1) 実施時期を理事会一任とし、専門医制度規則、規則施行細則を改訂した。整備指針2014に準じた基準で、専門医と指導医の認定および更新の条件を変更した。また、認定施設と教育関連施設の名称を専門研修基幹施設と専門研修連携施設に変更するとともに、専攻医を主として育成するのが専門研修基幹施設、専門研修基幹施設で研修できない部分を補うのが専門研修連携施設であり、これらが専門研修施設群を形成して専攻医の教育にあたる。なお、現行の規則、規則施行細則も一部改訂した。
 - (2) 専門研修カリキュラムと専門研修マニュアルをまとめた、専門研修カリキュラム初版(案)を作成した。
 - (3) 専門研修プログラム初版(案)を作成した。
 - (4) 専門指導マニュアル初版(案)を作成している。
 - (5) 専門医の勤務現状を調査するために、専門医にアンケート調査を実施した。また、統計調査委員会に、施設における専門医の勤務状況の調査を依頼した。
 - (6) 透析専門医の施設において、透析専門医による急性血液浄化・腎移植・アフェリシスの実施状況を把握するため、専門医制度委員会委員にアンケート調査を実施した。
 - (7) 総務委員会に、国民に対して専門医をわかりやすく説明するために、ホームページ上に掲載依頼を行った。また、会員カードの作製およびwebによる各種登録についての検討依頼を行った。
 - (8) 専門医試験問題の作成マニュアルを作成し、症例要約の無作為抽出による監査体制を整備し、専門医試験採点結果を開示した。
 - (9) 日本専門医制評価認定機構と日本専門医機構に対し、現機構社員学会85学会中、本学会を含む73学会が要望書を提出し、現機構理事会で19基本領域学会の代表者が新機構の社員となる要望を新機構組織委員会に提出することが決まった。
 - (10) 日本腎臓学会と専門医制度についての意見交換を行い、今後も定期的に会合をもつことになった。
- 3) 専門医制度における「倫理の問題」についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。

- 4) 専門医制度における女性の透析専門医の支援の在り方の審議を開始し、専門医制度委員会は1名以上の女性委員で構成し、次期委員会で支援の在り方を審議することになった。
- 5) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため2005年度より、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、カリキュラム小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位(5単位)を認定している。2009年度から専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙(マークシート)を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載した。
- 6) 2013年度専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験(問題形式はAタイプ、X2タイプ)、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定した。優良な試験問題1,000題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化を行う予定である。
- 7) 2014年度に実施する専門医試験特例緩和措置の応募を行い、47名の応募があった。
- 8) 生涯教育プログラムは、第83回北海道透析療法学会、第40回東北腎不全研究会、第36回栃木県透析医学会、第65回三多摩腎疾患治療医会研究会、第41回山梨透析研究会、第88回東海透析研究会、第81回和歌山透析研究会、第22回中国腎不全研究会、第47回四国透析療法研究会、第30回九州CAPD検討会、第41回宮崎県人工透析研究会の11地区の地方学術集会、及び専門医制度委員会が認めた第24回北海道腹膜透析研究会、第17回秋田腎不全研究会、第85回神奈川腎研究会、第41回長崎県人工透析研究会、第46回九州人工透析研究会の5地方学術集会も適正に施行された。より多くの生涯教育プログラムを実施するために、専門医制度委員会が認める5地方学術集会を次回より11地方学術集会に増加することになった。
- 9) 専門医認定(専門医認定試験)、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記の通りである。

① 第24回専門医認定

申請受付会告	2013年3月～5月
申請書類受付	2013年6月1日～6月30日
申請者数	<u>242名</u>
書類審査不適格者数	<u>7名</u>
受験者数	<u>235名</u>
専門医認定試験(客観式筆答試験・口頭試問試験)	10月20日(日)
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	<u>234名</u>
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	<u>1名</u>
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	<u>32名</u>
客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数	<u>202名</u> (合格率83.5%)
東京会場 都市センターホテル	
受験者数	202名/234名(83.5%)

【専門医更新総数】

更新対象者数	837名
更新申請者数	823名
更新適格者数	823名(合格率98%)

第4回専門医認定(1994年度認定・1999年度更新・2004年度更新・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年8月～10月
-----------	-------------

更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日
更新対象者数	396名
更新申請者数	388名
更新適格者数	388名
第9回専門医認定（1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日
更新対象者数	144名
更新申請者数	142名
更新適格者数	142名
第14回専門医認定（2003年度認定・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日
更新対象者数	102名
更新申請者数	101名
更新適格者数	101名
第19回専門医認定（2009年度認定）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日
更新対象者数	195名
更新申請者数	192名
更新適格者数	192名
② 第24回指導医認定	
申請受付の会告	2013年10月～12月
申請書類受付	2013年1月6日～2014年1月31日
申請者数	113名
適格者数	107名（合格率95%）

【指導医更新総数】

更新対象者数	328名
更新申請者数	303名
更新適格者数	303名（合格率92%）
第4回指導医認定（1994年度認定・1999年度更新・2004年度更新・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日
更新対象者数	118名
更新申請者数	115名
更新適格者数	115名
第8回指導医認定（1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日
更新対象者数	50名
更新申請者数	44名

更新適格者数	44名
第14回指導医認定（2004年度認定・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日
更新対象者数	88名
更新申請者数	79名
更新適格者数	79名

第19回指導医認定（2009年度認定）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日
更新対象者数	72名
更新申請者数	67名
更新適格者数	67名

③ 第23回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告	2013年4月～6月	
申請書類受付	2013年7月15日～8月15日	
申請施設数	認定施設	20施設
	教育関連施設	62施設
適格施設数	認定施設	20施設（合格率100%）
	教育関連施設	62施設（合格率100%）

【認定施設更新総数】

更新対象者数	96施設
認定施設	46施設
教育関連施設	50施設
更新申請施設数	82施設
認定施設	40施設
教育関連施設	42施設
更新適格施設数	80施設
認定施設	40施設（合格率100%）
教育関連施設	40施設（合格率95.2%）

第8回認定施設・教育関連施設認定（1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2013年4月～6月	
更新申請書類受付	2013年7月15日～8月15日	
更新対象施設数	認定施設	13施設
	教育関連施設	23施設
更新申請施設数	認定施設	13施設
	教育関連施設	21施設
更新適格施設数	認定施設	13施設
	教育関連施設	20施設

第13回認定施設・教育関連施設認定（2003年度認定・2009年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2013年4月～6月	
更新申請書類受付	2013年7月15日～8月15日	

更新対象施設数	認定施設	18 施設
	教育関連施設	20 施設
更新申請施設数	認定施設	15 施設
	教育関連施設	14 施設
更新適格施設数	認定施設	15 施設
	教育関連施設	13 施設

第 18 回認定施設・教育関連施設認定（2010 年度認定）更新認定

更新申請受付の会告		2013 年 4 月～6 月
更新申請書類受付		2013 年 7 月 15 日～8 月 15 日
更新対象施設数	認定施設	15 施設
	教育関連施設	7 施設
更新申請施設数	認定施設	12 施設
	教育関連施設	7 施設
更新適格施設数	認定施設	12 施設
	教育関連施設	7 施設

④ 各小委員会の認定状況（2014 年 4 月 1 日現在で記載）

専門医数	5,175 名
指導医数	1,900 名
認定施設数	445 施設
教育関連施設数	614 施設

施設認定数計 計 1,059 施設

専門医制度委員会関連会議開催状況

- ・ 2013 年 5 月 2 日（木）専門医制度委員会開催
- ・ 2013 年 6 月 7 日（金）専門医制度委員会開催
- ・ 2013 年 6 月 20 日（木）研修プログラム小委員会
- ・ 2013 年 6 月 23 日（日）専門医認定小委員会・施設認定小委員会 合同の会
- ・ 2013 年 9 月 6 日（金）専門医制度委員会・専門医認定小委員会・専門医試験小委員会 合同の会
- ・ 2013 年 11 月 15 日（金）専門医試験小委員会
- ・ 2013 年 11 月 15 日（金）専門医認定小委員会
- ・ 2013 年 11 月 15 日（金）施設認定小委員会
- ・ 2013 年 11 月 15 日（金）専門制度委員会
- ・ 2014 年 1 月 25 日（土）カリキュラム小委員会（セルフトレーニング問題 WG）
- ・ 2014 年 3 月 7 日（金）専門医認定小委員会
- ・ 2014 年 3 月 7 日（金）専門医制度委員会

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第 58 回日本透析医学会学術集会において、シンポジウム、アジアの夕べおよび一般演題の委員会セッションを行った。

シンポジウムは以下の 2 題

Symposium Topics

#1. “Dialysis patients and malignancy : Do they have higher incidence?”

Moderators : Drs. Kazo Kaizu, Yusuke Tsukamoto

Speakers :

1. Dr. Robert N Foley (USA) : USRDS
2. Dr. Charles Chazot (France) : Tassin experience
3. Dr. Kazo Kaizu (Japan) : Japanese experience
4. Dr. Peter Stenvinkel (Sweden) : Malignancy and protein malnutrition

#2. "Treatment strategy for ESKD patients : Conservative or Dialysis?"

Moderators : Drs. Hideki Kawanishi, Yukio Yuzawa

Speakers :

1. Dr. Carmine Zoccali (Italy) : European experience
2. Dr. Adeera Levin (Canada) : Trajectory of CKD progression (KDIGO)
3. Dr. Seiji Ohira (Japan) : Japanese experience, personnel perspectives
4. Dr. Xueqing Yu (Guangzhou) : Chinese experience
5. Dr. Rodger Greenwood (UK London) : Conservative treatment

一般演題は、6月21日に第8会場において、International Session 1および2として、インド、ミャンマー、台湾などから6演題の口演があった。

英語のセッションが一会場にまとめられ、一日中英語セッションが動かずに参加でき、会場の大きさが適切であり、参加者からの評判も良好であった。大会長主導の国際セッションであるCKD-MBDのシンポジウムを中心に、国際学術交流セッションの演題の一部計10題は、KIのsupplementとして刊行された。

- 2) 海外参加者および会員の交流の場として、Welcome Partyが主に大会長企画で開催されたため、サポートをした。また、Farewell Partyは、当委員会を中心として企画し、Eady先生ご夫妻を始めとして多くの海外からの参加者、シンポジストにご参加いただき、JSDT会員、国際学術交流委員会委員との国際交流が活発に行われた。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第2回評議員選挙を実施した。

- 1) 日本透析医学会評議員選挙規則第7条に基づき、一般社団法人第2回評議員選挙について日本透析医学会雑誌10月号に有権者名簿、立候補資格、地区の定数、選挙期日などを公示した。
- 2) 有権者から、平成25年11月20日までに有権者名簿に遺漏、誤記を認め、異議申し立てがあった際には、これを受け、異議を認める予定であったが、異議は提出されなかった。
- 3) 平成25年11月20日立候補締切、日本透析医学会雑誌12月号に立候補者名を地区別に公示した。
- 4) 平成25年12月1日までに立候補辞退届を受理することと定められていたが、届け出はなかった。
- 5) 投票用紙を有権者に平成26年1月上旬に郵送した。
- 6) 平成26年2月15日に投票受付を締め切り、平成26年2月18日に立会人の下で開票した。なお、平成26年2月14日から関東甲信越地区を中心に発生した大雪被害で郵便物の遅延が生じた。郵便局からの遅配証明が付記されている郵便物も多く、2月14日までの消印が押されている投票用紙に関しては、これを受け付けることとした。
- 7) 選挙結果は平成26年2月20日に日本透析医学会ホームページ上に掲示した。
- 8) すみやかに当選者に通知し、日本透析医学会雑誌3月号に公示した。
- 9) 選挙結果発表日から14日以内に文書で届けられる異議申し立てはなく、開票結果は確定した。

9. 保険委員会

平成 26 年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会，日本腎臓学会，日本アフェレシス学会，日本急性血液浄化学会，日本小児腎臓病学会，日本腹膜透析医学会並びに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行った。その結果，1) 慢性維持透析濾過（複雑なもの）を行った場合の増点，2) J038 人工腎臓実施回数「1 月に 14 回に限る」の回数制限の変更を提案したが，平成 26 年度の診療報酬改定には反映されなかった。

「透析液水質確保に関する研修」を専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

今年度は倫理委員会で審議する案件がなく，委員会は開催されなかった。

2) 個人情報管理

個人情報（評議員，正会員氏名，所属）の提供依頼があり，

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第 4 条関係）

9 件申請があり，いずれも承認した。

(2) 個人情報管理者，理事長，常任理事の合意で決定し，理事会の承認を得るもの（第 8 条第 4 項関係）

申請がなかった。

11. 腎不全総合対策委員会

1) 腎移植の普及に努めた。

(1) 腎移植への理解を深めるため，日本移植学会，日本臨床腎移植学会と共同にて，日本透析医学会学術集会・総会，および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め，移植，特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。

(2) 医療側，患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために，上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な公開を積極的に進めた。2013 年 6 月第 57 回日本透析医学会学術集会において委員会報告として行った。腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは，今年度も末期腎不全統計，preemptive 腎移植，保存期腎不全治療，腎代替法の現況を継続的に集約し報告する筋道をたてた。さらにその成果を学会 Web，商業誌，monograph などで公開することを申し合わせた。

(3) ドナー不足に対して，各種学会・研究会などにおいて，臓器提供カードの配布を推進し，臓器提供の増加をはかった。また生体腎移植の実態について啓発を行った。

(4) 会員に，改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し，「旅行移植」「病腎移植」の問題についても積極的な啓発活動を行った。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じた。

(1) 日本腎臓学会，厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班，本学会統計調査委員会と協力し，円滑なレジストレーション，および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を継続して強化した。

(2) 小児についても，日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。

(3) 厚生労働省が支援し，現在日本腎臓学会で行われている，CKD 重症予防対策についても継続して協力した。

3) 腹膜透析の普及に努めた.

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかけた.
- (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った.

4) 腎代替療法の治療選択に対する公平性の維持に務めた.

- (1) 腎不全患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、作成 DVD を増刷し配布と普及に努めた.

5) 急性腎障害 (AKI) 診療ガイドラインの策定に協力することとした.

- (1) 日本腎臓学会より、日本急性血液浄化学会、日本集中治療医学会、日本小児腎臓病学会の協力の基に、KDIGO ガイドラインなどとは大きく異なるわが国の実情にあった急性腎障害 (AKI) 診療ガイドラインの策定への協力の依頼があった. 腎不全総合対策委員会が窓口となり、日本透析医学会学術委員会の案件として委託し、学術委員会内のガイドライン作成小委員会の案件として進めていただくことになった. この事業についても腎不全総合対策委員会としても協力していくことを決定した.

12. 危機管理委員会

- 1) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関連する緊急安全情報の中で、透析医療にかかわるものについて、日本透析医学会ホームページに随時掲載し会員への周知を図った.
- 2) 日本透析医学会の理事、統計調査委員会地域協力員は日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と連携し活動した.
- 3) 日本透析医会が中心になって実施した「透析医療事故の実態に関する全国調査」について、アンケート案作成、アンケート実施に対して協力を行った.

・東日本大震災学術調査ワーキンググループ

東日本大震災学術調査ワーキンググループは、2013年11月に「東日本大震災学術調査報告書」を上梓し施設会員、透析医療関連団体、危機管理関連団体、地方自治体など総計4,757施設・団体に送付した.

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき、利益相反状態に関連した以下の事項を実施した.

- 1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員 (理事長, 理事, 監事), 総会会長, 委員会委員長, 特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出

なお、会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった.

2014年1月10日に研究者の利益相反等検討委員会を開催し、利益相反 (COI) に関する指針ならびに取り扱い細則の見直しについて検討した.

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	水口 潤	平成24年11月18日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	有
常任理事	川西 秀樹	同	非常勤	なし	有
同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	有
同	平方 秀樹	同	非常勤	なし	無
理事	安藤 亮一	同	非常勤	なし	有
同	岡田 一義	同	非常勤	なし	無
同	衣笠 えり子	同	非常勤	なし	有
同	重松 隆	同	非常勤	なし	無
同	椿原 美治	同	非常勤	なし	無
同	友 雅司	同	非常勤	なし	有
同	中西 健	同	非常勤	なし	有
同	中元 秀友	同	非常勤	なし	無
同	中山 昌明	同	非常勤	なし	無
同	新田 孝作	同	非常勤	なし	有
同	深川 雅史	同	非常勤	なし	無
同	政金 生人	同	非常勤	なし	無
同	峰島 三千男	同	非常勤	なし	有
同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	有
同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	無
同	渡邊 有三	同	非常勤	なし	有

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	秋葉 隆	平成24年11月18日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	有
同	土谷 健	同	非常勤	なし	有
同	仲谷 達也	同	非常勤	なし	有

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成24年9月3日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	秋葉隆	同	非常勤	なし	
3	同	浅野友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	有蘭健二	同	非常勤	なし	
7	同	有村徹朗	同	非常勤	なし	
8	同	安藤稔	同	非常勤	なし	
9	同	安藤康宏	同	非常勤	なし	
10	同	安藤亮一	同	非常勤	なし	
11	同	家原典之	同	非常勤	なし	
12	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
13	同	池田潔	同	非常勤	なし	
14	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
15	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
16	同	石田陽一	同	非常勤	なし	
17	同	石光俊彦	同	非常勤	なし	
18	同	石村栄治	同	非常勤	なし	
19	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
20	同	井関邦敏	同	非常勤	なし	
21	同	板垣信生	同	非常勤	なし	
22	同	伊丹儀友	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
24	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
25	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
26	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
27	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
28	同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
29	同	井上徹	同	非常勤	なし	
30	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
31	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
32	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
33	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
34	同	内田信一	同	非常勤	なし	
35	同	乳原善文	同	非常勤	なし	
36	同	大城吉則	同	非常勤	なし	
37	同	大園誠一郎	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大 家 基 嗣	同	非常勤	なし	
39	同	岡 田 一 義	同	非常勤	なし	
40	同	緒 方 浩 顕	同	非常勤	なし	
41	同	岡 田 浩 一	同	非常勤	なし	
42	同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
43	同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	
44	同	萩 原 雅 彦	同	非常勤	なし	
45	同	奥 田 誠 也	同	非常勤	なし	
46	同	奥 野 仙 二	同	非常勤	なし	
47	同	小 倉 誠	同	非常勤	なし	
48	同	小 田 寛	同	非常勤	なし	
49	同	小 瀧 慶 長	同	非常勤	なし	
50	同	角 田 隆 俊	同	非常勤	なし	
51	同	柏 原 昇	同	非常勤	なし	
52	同	春 日 弘 毅	同	非常勤	なし	
53	同	加 藤 明 彦	同	非常勤	なし	
54	同	金 井 英 俊	同	非常勤	なし	
55	同	金 澤 良 枝	同	非常勤	なし	
56	同	金 田 幸 司	同	非常勤	なし	
57	同	鎌 田 貢 壽	同	非常勤	なし	
58	同	川 西 秀 樹	同	非常勤	なし	
59	同	菅 政 治	同	非常勤	なし	
60	同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	
61	同	北 村 健 一 郎	同	非常勤	なし	
62	同	北 村 真	同	非常勤	なし	
63	同	鬼 無 信	同	非常勤	なし	
64	同	衣 笠 え り 子	同	非常勤	なし	
65	同	木 野 恭 子	同	非常勤	なし	
66	同	木 全 直 樹	同	非常勤	なし	
67	同	草 野 英 二	同	非常勤	なし	
68	同	久 野 勉	同	非常勤	なし	
69	同	熊 谷 裕 生	同	非常勤	なし	
70	同	桑 原 道 雄	同	非常勤	なし	
71	同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	
72	同	小 林 修 三	同	非常勤	なし	
73	同	小 松 康 宏	同	非常勤	なし	
74	同	小 藪 助 成	同	非常勤	なし	
75	同	今 裕 史	同	非常勤	なし	
76	同	今 田 恒 夫	同	非常勤	なし	
77	同	齋 藤 修	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
79	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
80	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	
81	同	坂本尚登	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤滋	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤隆	同	非常勤	なし	
84	同	佐藤壽伸	同	非常勤	なし	
85	同	佐藤正嗣	同	非常勤	なし	
86	同	三馬省二	同	非常勤	なし	
87	同	重松隆	同	非常勤	なし	
88	同	穴戸寛治	同	非常勤	なし	
89	同	篠田俊雄	同	非常勤	なし	
90	同	柴垣有吾	同	非常勤	なし	
91	同	柴原伸久	同	非常勤	なし	
92	同	柴原宏	同	非常勤	なし	
93	同	島田久基	同	非常勤	なし	
94	同	杉本俊門	同	非常勤	なし	
95	同	杉山齐	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木寿英	同	非常勤	なし	
97	同	清野耕治	同	非常勤	なし	
98	同	関田憲一	同	非常勤	なし	
99	同	副島一晃	同	非常勤	なし	
100	同	竹中恒夫	同	非常勤	なし	
101	同	竹本文美	同	非常勤	なし	
102	同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
103	同	田邊一成	同	非常勤	なし	
104	同	田畑勉	同	非常勤	なし	
105	同	田村禎一	同	非常勤	なし	
106	同	田村雅仁	同	非常勤	なし	
107	同	塚本雄介	同	非常勤	なし	
108	同	土田健司	同	非常勤	なし	
109	同	土谷健	同	非常勤	なし	
110	同	椿原美治	同	非常勤	なし	
111	同	鶴田良成	同	非常勤	なし	
112	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
113	同	富永芳博	同	非常勤	なし	
114	同	友雅司	同	非常勤	なし	
115	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
116	同	中井滋	同	非常勤	なし	
117	同	中岡明久	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	中里優一	同	非常勤	なし	
119	同	長沢正樹	同	非常勤	なし	
120	同	中島一朗	同	非常勤	なし	
121	同	中島貞男	同	非常勤	なし	
122	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
123	同	中西健	同	非常勤	なし	
124	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
125	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
126	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
127	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
128	同	中山昌明	同	非常勤	なし	
129	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
130	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
131	同	西一彦	同	非常勤	なし	
132	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
133	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
134	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
135	同	新田豊	同	非常勤	なし	
136	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
137	同	野々口博史	同	非常勤	なし	
138	同	堅村信介	同	非常勤	なし	
139	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
140	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
141	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
142	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
143	同	長谷川廣文	同	非常勤	なし	
144	同	服部元史	同	非常勤	なし	
145	同	花岡一成	同	非常勤	なし	
146	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
147	同	浜田弘巳	同	非常勤	なし	
148	同	林晃一	同	非常勤	なし	
149	同	林晃正	同	非常勤	なし	
150	同	林松彦	同	非常勤	なし	
151	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
152	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
153	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
154	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
155	同	平方秀樹	同	非常勤	なし	
156	同	平田純生	同	非常勤	なし	
157	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
159	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
160	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
161	同	藤森明	同	非常勤	なし	
162	同	測之上昌平	同	非常勤	なし	
163	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
164	同	古巢朗	同	非常勤	なし	
165	同	古藪勉	同	非常勤	なし	
166	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
167	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
168	同	保利敬	同	非常勤	なし	
169	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
170	同	前野七門	同	非常勤	なし	
171	同	前波輝彦	同	非常勤	なし	
172	同	政金生人	同	非常勤	なし	
173	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
174	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
175	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
176	同	松下和通	同	非常勤	なし	
177	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
178	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
179	同	松本博	同	非常勤	なし	
180	同	丸林誠二	同	非常勤	なし	
181	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口潤	同	非常勤	なし	
184	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
185	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
186	同	宮形滋	同	非常勤	なし	
187	同	三輪真幹	同	非常勤	なし	
188	同	武藤重明	同	非常勤	なし	
189	同	村上円人	同	非常勤	なし	
190	同	室谷典義	同	非常勤	なし	
191	同	望月隆弘	同	非常勤	なし	
192	同	森典子	同	非常勤	なし	
193	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
194	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
195	同	八城正知	同	非常勤	なし	
196	同	安永親生	同	非常勤	なし	
197	同	矢内充	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
199	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
200	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
201	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
202	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
203	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
204	同	湯浅 健司	同	非常勤	なし	
205	同	湯澤 由紀夫	同	非常勤	なし	
206	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
207	同	横山 建二	同	非常勤	なし	
208	同	横山 仁	同	非常勤	なし	
209	同	横山 雅好	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 篤博	同	非常勤	なし	
211	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	吉矢 邦彦	同	非常勤	なし	
214	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
215	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
216	同	和田 晃	同	非常勤	なし	
217	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	
218	同	渡邊 有三	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	218名	なし	
合計	241名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	本年度末	前年度末		
	平成 26 年 3 月 31 日現在	平成 25 年 3 月 31 日現在		
正 会 員	12,648	12,253	395	
施設会員	3,936	3,894	42	
賛助会員	75	77	-2	
名誉会員	42	41	1	
計	16,701	16,265	436	

③ 職員に関する事項

平成 25 年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	齋 藤 良 雄	平成 23 年 4 月 1 日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
平成 25 年 5 月 24 日 第 1 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 平成 25 年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 3. 平成 25 年度コメディカルスタッフ研究助成対象者の選考に関する件 4. 平成 24 年度事業報告（案）に関する件 5. 平成 24 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 6. 平成 24 年度公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件 7. 平成 24 年度監事による監査報告に関する件 8. 日本透析医学会コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程の一部改正（案）に関する件 9. 専門医制評価・認定機構の認定に関わる整備に関する件 10. 血液透析療法ガイドライン作成に関する件 11. 一般社団法人医療安全全国共同行動への正会員登録に関する件 12. 「腎疾患患者の妊娠—診療の手引き（仮）」改訂委員会の委員の推薦に関する件 13. 東日本大震災学術調査報告書の送付に関する件 14. 第 58 回学術集会通常総会に関する件 15. 第 58 回学術集会・総会時の各賞表彰式次第（案）に関する件 16. 宮家隆嗣先生を顕彰することに関する件 17. 「医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望」の募集に関する件 18. 第 58 回（平成 25 年度）学術集会・総会について 19. 第 59 回（平成 26 年度）学術集会・総会について 20. 第 60 回（平成 27 年度）学術集会・総会について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 平成 26 年 3 月 7 日	1. 平成 25 年度補正予算（案）について 2. 平成 26 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 平成 26 年度予算（案）について 4. 固定資産である特定資産から流動資産への繰入（案）について	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・編集委員会 平成 25 年 10 月 18 日	1. 透析医学会学術集会・総会の抄録集の配布について 2. 学術集会・総会の正式英語名について 3. その他	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・学術委員会 平成 25 年 4 月 26 日	1. 学会賞・奨励賞の選定について 2. コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程の一部改正（案）について 3. 名誉会員・学会賞・奨励賞及びコメディカルスタッフ研究助成授与式に関する件について 4. コメディカルスタッフ研究助成金の授与対象者について	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・統計調査委員会 平成 25 年 5 月 24 日	1. DB 管理 WG について 2. 2012 年調査について 3. 2012 年「図説現況」の原稿確認 4. 2013 年末調査について 5. データベース検証報告 6. 統計調査データ利用規定の改定 7. 公募研究・委員会研究の進捗状況	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 25 年 9 月 20 日	1. 2012 年調査報告 2. 2013 年調査内容の決定 3. 公募研究・委員会研究進捗状況 4. 統計調査データ利用規定の改定	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 26 年 2 月 7 日	1. 2013 年調査の進捗状況について 2. 平成 25 年度公募研究審査報告と承認 3. 匿名化強化に関する件 4. 統計調査データ利用規定の改定	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 平成 25 年 5 月 2 日	1. 研修カリキュラム進捗状況について 2. 透析専門医像案について 3. 研修プログラム案について 4. 透析専門医の条件（新規・更新）について 5. 専門医試験における監査体制と試験問題難易度調整基準について 6. 基幹研修施設と関連研修施設の認定基準について	報告・承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 25 年 6 月 7 日	1. 専門医制度規則施行細則の一部改訂について 2. 日本小児科学会へ本会が Subspecialty 領域専門医としての認可を得るための情報提供 3. ID カード会員証や WEB 化の必要性について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 25 年 11 月 15 日	1. 第 23 回認定施設・教育関連施設の新規認定について 2. 2013 年度認定施設・教育関連施設の更新認定について 3. 第 8 回認定施設とその認定施設が指定した教育関連施設の更新認定について 4. 第 13 回認定施設とその認定施設が指定した教育関連施設の更新認定について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・研究者の利益相反等 検討委員会 平成 26 年 1 月 10 日	1. 利益相反事項 (COI) に関する指針ならびに取扱い細則の見直しについて	継続審議

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申 請 事 項	許可等月日	備 考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相 手 方	契 約 の 概 要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	水 口 潤	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		公益財団法人 とくしま移植医療推進財団	理 事	
		日本慢性腎臓病協議会	副理事長	一 部
常任理事	川 西 秀 樹	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	監 事	一 部
理 事	安 藤 亮 一	一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会	副理事長	
	衣 笠 え り 子	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
	中 西 健	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
	新 田 孝 作	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	副理事長	
	峰 島 三 千 男	一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部
	山 縣 邦 弘	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	
		財団法人 いばらき腎バンク	理 事	
		特定非営利活動法人 筑波腎臓内科医療育成支援機構	理事長	
	渡 邊 有 三	公益財団法人 愛知腎臓財団	常務理事	ほぼ同一
		公益財団法人 日本透析医会	(仮) 監事	ほぼ同一
監 事	秋 葉 隆	公益財団法人 日本透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフェレシス学会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	
	仲 谷 達 也	一般社団法人 日本泌尿器科学会	理 事	
公益財団法人 大阪腎臓バンク		常任理事		

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。